

から12キロ余り、西は空知の西の山々までの間およそ50キロ余り、そして南北に20キロほどは視界を遮るものではなく、広野が見渡すことができます。山に囲まれた地形なので、暖かく、本州の1つの国に値するほどの広さがあります。

同行している飯田氏は「これほどまでに素晴らしい土地があることは誰も知らないでしょう。帰つてこのことを皆に説明しても、誰も信じてくれそうにありません」などと、とても感嘆していました。夜になり、アイヌに火を放たせて眠りにつきましたが、次第に燃え広がり、風も強くなつたため、夜中にはその火は四方に燃え広がり、天をも焦がす勢いとなつていたのでした。

3月7日

明け方、風はますます強くなり、火の勢いもさらに増していました。焼け野原を1キロ余り歩き、小川のフシコベツを過ぎると、中川のイワヲベツがありました。これらの川も火山帯から流れてい

るので、水は酸味があります。2キロほど進んでレホシナイ川から平山のコロクニウシコツを登り、さらに4キロほど進んだところで樹木の多い場所に着き、ニヨトイを過ぎトドマツが生い茂る笹原に入りました。そこから600メートルほど下り、ベベルイ川を渡つて2キロほど進むと、水に流されて丸くなつた大きな石が転がる川原があり、その石の上には雪が被つていました。

その石の上を歩いて渡つていくのですが、時々石と石の間に足を踏み込む恐れがあつて、この上なく危険です。

少し進むと、雪の上に昨日あたりに人が通つたと思われるかんじきの跡を見つけました。その600メートルほど上には



かんじき

雪や泥などの上を歩くための道具。わらじの上から取りつけた。